

# 概 要 報 告

実施期日	8月1日(木)
部会名	中学校 音楽部会

## 神奈川県研究主題

資質・能力の育成のための学習評価の充実（指導と評価の一体化）

## 中学校テーマ

### 『指導要領の則った授業改善、評価の工夫～3観点の往還～』

#### 提案概要

単元（題材）：リズムを作ろう！ 対象学年：第1学年

〈リズム創作を通して、身に付けさせたい力〉

- ・既存の作品の良さに気付き、自分の作品に取り入れながら創作できるようになる。
- ・記譜に関する簡単な知識を身に付ける。
- ・作品をよりよいものにしようとする粘り強さや調整力を高める。

〈手立て〉

- ・生徒の音符や楽譜に対するの苦手意識を解消するため、4分音符分の音価をもつリズムをカード形式で用意したり、音符や休符を「タン」や「ウン」といったオノマトペを用いて表したりする。
- ・楽譜を見て、リズムを読み取ることのできる生徒が少ないため、友達作品を見て演奏する機会を多くしたり、友達に質問しやすい環境をつくったりする。
- ・生徒の意欲を引き出すため、生徒間で流行している楽曲を選定し、その中から反復や変化を感じ取れるよう工夫をする。

〈実践〉

1時間目：4分の4拍子1小節のリズム創作

生徒の作品をつなげて1つの長い作品にし、全員で演奏。教員がICTを活用し、その場で生徒の作品をスクリーン上に映し出す。（教育課程発表の中でも実践）

2時間目：「反復」について理解し「反復」を踏まえた4分の4拍子2小節のリズム創作

生徒間で流行している楽曲を例にあげて、「反復」に気付かせる。友達に“「反復」とはこういうことだと思う”と説明する。（教育課程発表の中でも実践）

「反復」を意識しながら、リズム創作

各班の代表生徒の作品発表。（教育課程発表の中でも実践）

3時間目：「変化」について理解し、「変化」を踏まえた4分の4拍子4小節のリズム創作

「変化」について、2時間目同様に活動する。（教育課程発表の中でも実践）

4時間目：「対照」について理解し、「反復」「変化」「対照」を踏まえた4分の4拍子12小節のリズム創作

「対照」について、2時間目同様に活動する。（教育課程発表の中でも実践）

〈成果〉

- ・「反復」についての例示を多く取り入れたことや、生徒にとって身近な楽曲を選定したことにより、「反復」を理解し、表現活動に取り入れる生徒が多かった。
- ・音符や休符の名称等はこの単元では扱わず、オノマトペを使うという手立てを用いたことにより、グループの生徒や教員とのやりとりの中でも「タンタタのところは...」「タカタカ使いすぎているかな?」といった具合に直感的な表現が可能になったことで、苦手意識をもった生徒がグループワークに参加できた。
- ・できあがった作品を実際に演奏して試す生徒が多く、「演奏」→「修正・記譜法の確認」→「演奏」と

いった往還が授業内でも見られた。

#### 〈課題〉

- ・今後、「タン」「タタ」「ウン」「ンタ」「タカタカ」の5種類以外のリズムについて触れていく際や「拍」「音価」といった概念を扱う際にも、一度に伝える知識が膨大化しないようねらいを焦点化する必要があると感じた。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価について、ワークシートから生徒の変容を見取っていくうえで、勤務時間の使い方を踏まえ、現実的に可能な方策を研究したい。
- ・今後、リズムに音価や音程を付けていく際に、本単元で学んだ要素が生かせるよう、系統性をもたせるようにしていきたい。

#### 質疑応答

- ・特になし

#### 協議の柱及び協議概要 ※小中合同

協議の柱①「主体的な表現を引き出す授業の工夫」

協議の柱②「小・中音楽科それぞれが目指す子どもの学ぶ姿」

→①②を小中合同でグループ協議した。

##### ① 各グループの協議記録より参考

- ・今回の授業では、4分音符を「タン」に統一することで、苦手だと感じてしまう子どもでも楽しめる工夫がされていた。
- ・先生が教え込むのではなく、子ども自身に気付かせるよう工夫されていた。
- ・ICTの活用、使用楽曲、ワークシートなど、授業準備を大事にされていると感じた。
- ・今回の授業で生徒が日常的によく耳にする楽曲から、「反復」等に気付かせた。
- ・グループ活動にて友達の作品を演奏したり、多様な意見を共有したりする姿が見られた。

##### ② 3つのグループより発表

- ・「音楽を楽しむ心を大切にする」  
感じたことを表現できる姿を大切に、身の回りの音に興味をもてる児童生徒を育成する。
- ・「人生を豊かにする“音楽”であってほしい」  
音楽で人生を豊かにできる児童生徒を育成する。
- ・「音楽が好きな大人になってほしい」  
学校だからこそできる仲間との活動を大切に、間違いを恐れず活動する。卒業しても音楽が好きな児童生徒を育成する。

#### まとめ概要

小中合同の発表・協議ということで、9年間の学びをより考えていくよい機会となった。音楽専科でない小学校の教員もいる中で、多くの教員にとって有意義な時間になったのではないかと。小中それぞれの取組や考えが互いに参考になっている様子だった。小学校6年生と中学校1年生の授業実践ということで、小学校から中学校へのつながりも意識することができた。

また、協議の時間を多くとっていたが、小グループだったのも効果があり、各グループ自分事として話をしていた。主体的な話し合いがされていて、とても充実した会になった。

中学校としては、「参加型」の発表形式がとても好評であった。音楽の中でも難しい「創作活動」について親しみをもつきっかけをもらった教員がたくさんいるように感じる。

最後に、「小・中音楽科それぞれが目指す子どもの学ぶ姿」はどのグループにも共通する部分が多かった。小中共に、仲間との活動を充実させ、より「音楽」を好きになる児童生徒を育成し、多くの音楽に触れ「音楽」の素晴らしさを感じることでできる授業を行うことが大切である。